**基本情報**

時間割コード／Course Code　020277

開講区分(開講学期)／Semester　２学期

曜日・時間／Day and Period　水6

開講科目名／Course Name (Japanese)　リーダーシップを考える

開講科目名(英)／Course Name　　Taking Leadership Seriously: Learning from Doing

単位数／Credits　2 　対象所属／Eligibility　　年次／Student Year　1,2,3,4,5,6年

担当教員／Instructor　 太刀掛俊之・木川田一榮

開講言語／Language of the Course　日本語

基本項目

サブタイトル／Subtitle

セミナー番号／Seminar Number　401

履修対象／Eligibility　全学部

開講時期／Schedule

セメスター／Semester　Ⅱ

講義室／Room　国際公共政策研究科（OSIPP）棟　２階　講義シアター

**授業の目的と概要／Course Objective**

この授業では、学生と教員が社会と協働して授業を創造し運営する活動の中で、リーダーシップを体験しながら考え、学びます。

リーダーシップは、首相や社長などの地位から生じるものではありません。また、一部の選ばれた特別な人のためのものでもありません。リーダーシップの基本は、私たち一人一人が様々な問題を責任を持って解決しようとする行動にあります。リーダーシップの目的は、困難な問題を解決するために人びとに価値観や行動の変化（学習）を促すことです。

この授業では、まずリーダーシップの**理論**を学び、「リーダーシップとは何か」について考え、**仮説**を持って授業に臨みます。**スキルの修得や実践**の過程でリーダーシップについて考え、最後に仮説を**検証**します。

授業の後半には受講生が企画したイベント（集中講義または行事等）を実施します。イベントの企画・立案の過程で失敗や成功を重ねることにより、リーダーシップについて体験的により深く学ぶことが期待できます。また、リーダーシップの重要要素である話し方やコミュニケーション力、プレゼンテーションスキル等を養成することができます。

さらに、授業の過程で、「場の作り方」や「メールの書き方」など、社会生活のあらゆる場面で役立つ基本スキルを修得します。

また、リーダーシップを実践しているゲストから学ぶ機会も設けています。

＜過去のゲストスピーカー＞

・岡田純子氏（日本ファシリテーション協会認定講師）

・光島太郎氏（株式会社リブトゥデイ　代表取締役社長）

・福井佑実子氏（株式会社プラスリジョン代表取締役）

・寺本将行氏（inochi学生プロジェクト代表）

・2019年度のゲストスピーカーは、決まり次第KOANに掲示します。

＜過去の受講者の感想＞

* 受講前までは、リーダーシップをとる上で大切なのは情熱や気合など、気持ちの面だと思っていた。しかし、講義を通して、ファシリテーションのスキルなど、練習と経験から得られるような面が非常に大切だということがわかった。（外国語学部1年）
* 授業においての、他の受講生の言動や、講師の方々、先生方の教えにヒントがあると思い、リーダーシップを考える概念のようなものから実践的な生きたものとして認識を変えた。（経済学部1年）
* 受講前までは曖昧であった「リーダーシップ」という概念についての理解がより明確になり、その能力を伸ばすための具体的なアクションを知ることができました。（法学部4年）

昨年度の授業日程表は以下のURLより閲覧できます。

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/leadership.html>

**学習目標／Learning Goals**

* リーダーシップに関する代表的な理論の理解に留まらず、他の受講者や講師との対話を通じて新しい考えに触れ、また授業中にリーダーシップを発揮する機会を持つことで、授業の最終回には実践に耐えうる自分なりのリーダーシップ論を持つ。
* 自分が主体的に意思を持って動けるようになる。
* 人に動いてもらえるような伝え方や動き方ができるようになる。
* チームや会議の中で話し合い、相手の意見を引き出して自分の意見をより良く変えていくことによって、合意形成ができるようになる。

**授業形態／Type of Class**

* 授業時間は原則として水曜日の18:00～20:00です。スキル修得の練習とディスカッションを集中的に行うことにより学習効果を高めます。
* 各回の授業の最後に「振り返りシート」を、また、適宜「自己評価シート」や「相互評価シート」を作成することにより、学んだことをきちんとフィードバックする習慣を身につけます。
* 詳細な授業日程は、KOAN等に掲示します。

**特記事項／Special Note**

【受講理由書】

* シラバスをよく読んで、なぜこの授業を受講したいかを記載した「受講理由書」をメールで提出してください。
* 「受講理由書」は、A4用紙１枚以内（Word 11ポイント）で作成し、ファイルのヘッダーに提出日・氏名・学番・メールアドレスを記入してください。提出期限は10月末日です。
* メールの件名に「2019リーダーシップを考える（受講者名）」と記入し、glp@osipp.osaka-u.ac.jp　宛にファイルを添付して提出してください。

**授業計画／Class Plan**

第1回：オリエンテーション

授業計画の全体像を確認する。リーダーシップについて学ぶ意義を押さえる。

第2回：リーダーシップとは？（１）

リーダーシップ理論の変遷を押さえた上で、「リーダーシップとは何か」について参加者同士の対話を通して考える。

●第1回自己評価シート記入

第３回：リーダーシップとは？（２）

「カルトの手法」とリーダーシップを比較することにより、リーダーシップの理解を深める。

第４回：スキルを身に着ける

ゲスト講師を招き、リーダーシップの発揮に有効なスキルを学ぶ。（例\_ファシリテーションや問題解決の手法等）

●第1回相互評価シート記入

第５，６回：スキルを身につける、新しいリーダーシップの在り方に触れる

ゲスト講師を招き、リーダーシップの発揮に有効なスキルを学ぶ。（例\_ブレインストーミングや意見集約の手法等）

新しいリーダーシップの在り方について学び、各自がリーダーシップに関する理解の幅を拡げる。

第７，8回：第10回授業の企画・運営について検討する

第4～6回授業で習得したスキルを活用しながら、第10回授業の開催に向けて必要な事項を議論し、今後の行動計画を立てる。

●第2回自己評価シート記入

第9回：リーダーシップとは？（３）

これまでの授業を振り返り、「リーダーシップとは何か」について受講者間の対話を通して再考する。

第10回：受講生が創る授業（イベント）

受講生が創った授業を行う。

第11回：第10回授業の振り返り

第10回授業を振り返り、第9回授業までに習得した理論や参加者間の対話を通して考えたリーダーシップに照らして、各自が適切な行動をとれていたかを確認する。

第12回：最終授業「リーダーシップを考える」

各自が考えるリーダーシップについて最終発表を行い、授業の成果を共有する。各自が今後の成長に向けたコミットメントを行う。

●第3回自己評価シート記入　●第3回相互評価シート記入

**授業外における学習／Independent Study Outside of Class**

* この授業はグローバルリーダーシップ・プログラム（GLP）の一部です。リーダーシップを総合的かつ実践的に身につけるためには2学期木曜日4限の「経営者と学ぶリーダーシップ」も受講すると効果的です。「経営者と学ぶリーダーシップ」は学部向けに開講されており、内容はゲストによるプレゼンテーションと質疑応答が中心です。

聴講を希望する場合は、グローバルリーダーシップ・プログラム事務局 glp@osipp.osaka-u.ac.jpに申し込んでください。

**教科書・教材／Textbooks**

* 第１回授業で、「GLP（Global Leadership Program）共通テキスト」を配布します。

**参考文献／Reference**

実践だけでは良いリーダーシップは身につきません。次の参考文献を自分の実践と照らし合わせながら授業に取り組むとより効果的です。

1. 『コミュニケーション力を引き出す』、平田オリザ・蓮行（著）、PHP研究所、2009年
2. 『最前線のリーダーシップ』、マーティ・リンスキー、ロナルド・A・ハイフェッツ（著）／竹中平蔵（訳）、ファーストプレス、2007年＜原著：Ronald A. Heifetz, Marty Linsky, “*Leadership on the Line*”, Harvard Business Review Press, 2002.＞
3. 『リーダー・パワー』、ジョセフ・S・ナイ（著）／北沢 格（訳）、日本経済新聞出版、2008年＜原著：Joseph S. Nye, Jr., *“The Powers to Lead”*, Oxford University Press, 2008.＞
4. 『リーダーシップは教えられる』、シャロン・ダロッツ・パークス（著）／中瀬英樹（訳）、武田ランダムハウスジャパン、2007年＜原著：Sharon Daloz Parks, “*Leadership Can Be Taught*”, Harvard Business Review Press, 2005.＞
5. 『ファシリテーション入門』、堀公俊著、日経文庫、2004年

**成績評価／Grading Policy**

* 受講理由書、平常点（行動の適切さ、チームへの貢献、相互評価）、学期末レポートなどにより総合的に評価します。

**受講生へのメッセージ／Messages to Prospective Students**

リーダーシップは、リーダーや一部の選ばれた特別な人のためのものではなく、全ての人の日常生活の身近にあるものです。リーダーシップを学び、身に着けることによって、より充実した学生生活を送るとともに、自らのキャリアデザイン（就職、進学、留学、起業等）にも活かしましょう。